



# NPO法人猫の足あとの 住居支援



2022年

# 猫の足あとの歩み

|          |                                                    |
|----------|----------------------------------------------------|
| 2011年2月  | 自宅の一室で中3勉強会開始                                      |
| 2016年4月  | 猫の足あとハウスでの活動開始<br>小学生や中1・2生も対象に<br>シェアハウスで住居支援を始める |
| 2018年1月  | NPO法人化                                             |
| 2019年7月  | 新町に第2ハウスを開設                                        |
| 2021年12月 | 柳沢に第3ハウスを開設                                        |

## 猫の足あとの目標

1. 貧困と格差から子どもを守る。未来に希望がもてるよう、必要な子どもたちに学習・食・住居を提供する居場所をつくる。
2. 子どもたちとともに自主的な学習をすすめ、人間としての権利を尊び科学的真実を愛し民主的社会の成員として成長できるよう支援する。



# 自宅での勉強会と食事



8畳間に中3の生徒5人と学生の先生たちが額を寄せて勉強。間に食事タイムでにぎやかに。



# 住居支援への道

- 2008年東京都教職員組合の執行委員に
- 子どもを貧困と格差から守る連絡会議を組織
- 児童養護施設を訪れて～亜美さんの話
- まずは自宅で家族でできる学習支援から
- 退職1年前、2015年に描いた展望  
自宅近くの土地を購入、学習支援と住居支援  
の場を建設する



# 2016年度 猫の足あとハウスでの活動開始



2016年3月に定年退職、4月から新築の「猫の足あとハウス」での活動スタート。

◎小学生の宿題クラブ 月曜日と木曜日、15時30分から18時まで

◎中3勉強会 月曜日18時30分から20時30分、夕食付

◎中学生勉強会 木曜日18時30分から20時30分、夕食付

◎2階に5部屋を設け、住居支援開始

◎教室を会場としてさまざまに活用

# 宿題クラブはみんながつくる居場所



- ◎宿題が終わればおやつと遊び。オセロ、カードゲーム、ボードゲーム、おはじき、ブロック、工作、絵、折り紙…やりたいことをいっしょにやろう
- ◎花見や遠足、夏休み企画、季節行事。地域探検や農業体験、ハロウィンやクリスマス会も楽しいね。
- ◎ルールはみんな決めてみんなで守る。



# 勉強会で大切にしてきたこと

- ◎教えるのは学生や若者、先生も学んでほしい
- ◎先生が、目指す身近なモデルになる
- ◎個別指導で、わからなくなったところから学び直し
- ◎食事中は交流の時間
- ◎塾に行っていない、都立高校をめざす中学生を対象に、不登校の子なども参加



## 猫の足あとハウス

西東京市南町3-19-8

若い女性限定の5部屋

35,000円~42,000円

## 猫の足あと第2ハウス

西東京市新町5-6-18

若い男性限定の3部屋 24,500円~30,000円

## 猫の足あと第3ハウス

西東京市柳沢6-1-2

若い女性限定の6部屋 35,000円~45,000円







## 2019年度 新町に家を 借りて第2ハウスを開設

住居支援の要求は多く、第2ハウスとして一軒家を借りることに。活動に賛同してくれた大家さんが格安で。

## 2021年度 柳沢のビル4, 5階 部分に第3ハウスを開設

コロナ禍で住居を求める問い合わせがさらに多くなり、支援の拡大を決意、契約やリフォームにたくさんの資金が必要となった。



# 支援につながった若者は想定外の多様さ

- ◎当初の想定は、児童養護施設出身者、奨学金で学ぶ大学生、非正規労働者など
- ◎家族がいない、誰からも支援がない子ども・若者
- ◎虐待を受け、行政や警察、支援団体からつながる
- ◎ヤングケアラー・搾取の対象になっていた子ども
- ◎精神的疾患を抱える、引きこもりだった若者
- ◎事件にかかわり、弁護士からつながる
- ◎親子関係に悩み不登校になった学生



# 住居支援の失敗と課題

- 入居者との距離感、入居者同士のトラブル  
「岸田さんはどっちの味方なのか？！」  
はじめに洗礼を受けたことで学ぶ
- 結局、家賃未納で退室してもらうことに  
警察からの連絡。支援はどこまでできるか。
- 相談なく仕事を辞めて行き詰ってしまった男子  
もう一度、支援の筋道を繰り返す
- 空いていなければ支援できないが、空室は運営に  
影響、資金がなければ住居支援はできない

# 活動で得たこと、これからの展望

- ◎自立の形はさまざま、ありのままを応援  
「自分ができることとできないことがわかった」
- ◎生活困窮窓口、社協、民生児童委員、子家セン、  
教育委員会、公民館等との連携
- ◎西東京わいわいネット（子ども食堂）、不登校の  
親の会、子どもにかかわる市民団体との繋がり
- ◎教室が、利用する子や若者、学生、地域の人との繋  
がりの場に
- ◎第3ハウスに「活用の間」、サポートスタッフが  
交流の企画をすすめる